

「安土信長葱」の新たな取組

東近江農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

J Aグリーン近江安土葱部会（平成23年度：部会員20名、栽培面積4.8ha）では、県内でも珍しい根深葱の栽培に取り組んでいます。ブランド化を図るため商標を出願され、平成23年5月「安土信長葱」として商標を取得することができました。さらなる産地の発展に向けて、今年度は面積拡大のための作期拡大に対して技術支援を行いました。

【普及活動の成果】

葱栽培では、定植作業以外にも収穫や調製作業に時間がかかるため、昨年までの出荷期間（11～2月）以外にも収穫できる作型を検討し、面積拡大を図りました。特に、葱の品質等を考慮し、10月に収穫できる作型について取り組むことにしました。

まず、部会の中で10月収穫ができる生産者をさがし、約40aの面積で取り組みを開始しました。生産者によって作業時期にややバラツキが見られたものの、ビニールハウスを利用し、播種は2月中旬から3月中旬、定植は4月中旬から5月中旬、約2ヵ月で定植可能な苗に仕上げることができました。また、労働競合が懸念された水稲植え付け時期までに、ほぼ定植を終えることが出来ました。



定植の様子（4月）

11月以降に収穫する従来の作型では、植え付けた苗が真夏にはほとんど生育しないので、土寄せは不要です。しかし、今回の作型では、定植後が葱の生育適温であるため、夏までに数回の土寄せを行う必要があります。今年は、大雨により排水の良いほ場でも通路に水が溜まるような状態となったため、株元は高温多湿の状態が続き白絹病や軟腐病が多発しました。ほ場巡回や情報提供を行い、土寄せ時には殺菌剤を使用することや排水対策を徹底することで克服し、10月中旬に収穫することができました。

これらの結果、面積拡大（2.4ha→4.8ha）が図れ、長浜と京都市場および生協を中心に出荷拡大されました。また、長期間の出荷や「地域食材」みんなでマーケティング事業の活用により、知名度が向上し、新たな販路開拓を行うこともできました。今後も、10月から3月にかけて安定的に出荷ができる体制が定着するよう支援を行っていきたいと考えています。



出荷された「安土信長葱」